

ボランティア研修会開催

2017年3月24日・31日 伊賀日本語の会
テクニカルアドバイザー 船見和秀先生



研修会に参加して

4班 原さん

昨年夏に続いて伊賀日本語の会の船見和秀先生でした。

船見先生いわく「ボランティアの先生役は自分自身を演出して、パフォーマンスが大事！」を、ご自身で実践して頂いたような楽しく引き付けられる1時間半でした。

おっしゃる、学習者の心理・気持ちに気配りをしたボランティアの反応の仕方、う〜ん難しいです。そのためには、自分の持ち味を知ってというのは、なるほど。

まず自己診断をして、行動派、ムードメーカー、気配り上手、知的探究者のどのタイプか、それを配慮して生かしながら学習者への反応やフィードバックの方法へと研修は進みます。

学習者とボランティアとの波長の合わせ方、特に初対面ならとても二人にとって大切な時間で、初めての学習者がこれからも市岡に来たいと思うかどうかを左右するようなひと時です。

何年前かに「日本語学習のボランティアは、お座敷に出る芸妓のようなもの、心はお座敷で客の求めに合わせて踊りや芸を披露して、会話を交わし、楽しい気分で気持ちよくひと時を過ごしてもらって、また来てもらう。でも、ボランティアは、ありがたい楽しい時間でした、今度も来ますの言葉に癒されるという嬉しさがあるんやで」と伺ったことが有ります。

芸妓にたとえるのは、船見先生のような品のある表現ではないかもしれませんが、学習者、ボランティアともに楽しくなければ、毎週決まった時間に行かない、続かない、そのためにも、先生がおっしゃる、笑顔で、学習者の趣味や、関心のあること、楽しいこと、好きなことを聞いて会話を

広げていく。上から視線や、やたら大げさに褒めるのは慎んで、褒める時は具体的にというのは、日常の日本人どおしの付き合いでも同じで、そんな中で、だんだんと打ち解けて信頼や絆が芽生え成長していくんでしょね。

・

今回の船見先生の研修は、一日しか受けられませんが、もしアンコール研修があれば、実践面での気づきや、そうなんや！のことが幾つもおススメです。

市岡の教室って、多くの学習者にとって、学び、憩い、癒し、素になれる、情のぬくもりを感じる、困ったことにアドバイスを貰える、いろんな彩りや小箱があるところなんですね。



今神戸の大学生です

Anggie Cynthia (アングイー) さん インドネシア

この記事は間違いところがたくさんあるかもしれませんが、良ければ最後まで読んでいただけませんか？

子供頃からいつも海外で留学したかったんですが、日本ではなく、フランスへいきたかったんです。でも色々あって、日本へ行くことにしました。今年一年半ぐらい大阪に住んでいます。色々な経験もできたし、友達もたくさんできました。確かに海外に住んでいるとは大変でした。文化ではなく、食べ物や人の考え方などを違うので慣れる時間もかかりました。

初めて日本へ来た時、ただひらがなとカタカだけが読めました。でも今に比べたら私の日本語は上達と思います。先生と友達のおかげで私の日本語は上達です。ある時には毎晩いつも日本語を勉強しましたが、本当に苦しいでしたが、日本語が上手なようにそれに仕方がありませんでした。でも日本語を勉強すると、苦しいだけではなく、楽しい事もあると思います。例えば、なぜ人「ひと」の漢字その形とか、そういう事とは、日本語を勉強の中によくあると思います。

初めて勉強をしたり、アルバイトをしたりするので、私にとって、日本へ来るとは本当に大切な経験になりました。一年半に住んでいるので、アルバイトの経験も結構ありました。中国のレストランで初めてアルバイトをしました。3ヶ月の後はそのアルバイトを辞めてホテルでアルバイトをしました。ホテルでアルバイトをするとは確かにしんどい



かったんですが、皆が優しく、一年三ヶ月ぐらいあそこでアルバイトしました。そして、初めて外国人と友達もできて、本当に嬉しいです。今までアジア人やアメリカ人やヨーロッパ人などと話し事がありました。文化や言語や食べ物などを交換して、新しい知識になりました。

そして、今年の四月から神戸の大学に入るので神戸に引っ越ししました。もう一週間大学に始まりました。その一週間はただ新入生のオリエンテーションだけです。授業は今週の日の土曜日から始まりました。私の日本語はまだ上手じゃないので、結構難しかったです。新しい友達もできて皆は私と同じ外国人です。大学で畑クラブも参加するつおりです。いつも中で勉強するので、外で活動するも必要と思います。大学で四年間に勉強するのでいい経験ができるように。

一期一会

陈姪薇 (チン アビ) さん 中国



2015年の10月、私は中国から日本に来た。今もう一年半の時間を過ぎて、日本に来たばかりの気持ちとすごし変わった。

日本にとってのイメージは、ほぼアニメやドラマなどのコンテンツからだ。熱い少年漫画や、繊細な感情を溢れているドラマはよく見ている、感動されている。その原因で、だんだん日本にいろいろな好意をもって、日本に留学するないし生活する思いが出てきた。

直な私は、日本に来たばかりの時、正直、日本語の曖昧なところよくわからなくて、困ったことも結構ある。よく、相手の本当の気持ちをわからなくて、時々「直接話せばいいだろう」という考え方も出てくる。でも、一年後の私も曖昧な言葉を使った。日本の文化を知るほど知れば、日本人の話し方や動き方をだんだん理解できることになった。あの時日本語もあんまり良くなかったのが、間違い時も沢山ある。今、少しずつ、日本語の曖昧やまたその婉曲の中での美しさを見つけた。夏名漱石は「I love you」という言葉を和訳して、「月が綺麗ですね」にした。最初、この言葉は見たとき、美しさを感じられるけれども、そういうやり方はまたうまく理解できなかった。今、日本の景色を見て、日本の文化を直接に感じて、あの言葉の翻訳方やって分かった。

言語を勉強していた過程が大変だが、他の国の文化の美しさを見つけることが楽しかった。

やはり日本に来たほうが、その文化を深く理解できる。桜、とても綺麗だが、一年の中で三日から四日だけ桜満開の様子を見られる。美しものはいつも早く消えて行く。その「一期一会」の気持ちはこうなんだろう。桜を散る時、初めてそういうこ



とを感じた。私、日本人のその美しいものを大切するところが結構好きだ。大切するほどすれば、この珍しさを知られる。曖昧な言葉も同じだろう。直接言うと、言語の魅力はすべて消える。

言語の曖昧は、その美しさを守るだろう。

(文中は2015年4月、港区で撮った写真)

追悼 田淵守男班長

2班 神原ひとみさん



2班の田淵守男班長が急逝されました。それは2016年度の最後の日のオープンクラスを終えてすぐの出来事でした。私は今でも信じられません。

あの日もいつもの金曜日と同じようにオープンクラスの後、港区民センター近くの焼き鳥のお店に行き、10人位で楽しく飲食しました。いつも通りの陽気な田淵班長がそこに居ました。いつものようにお酒を飲んで、焼き鳥や唐揚げを食べながら楽しく話をしました。

「班長、飲むのも程々にしてちゃんと家まで帰ってや」と「大丈夫、大丈夫」というのがいつも通りの、でも最後の会話になりました。まさかその翌朝に急逝されるとは想像もせずに。

田淵班長は良い班長でした。緩い感じでほのぼのした雰囲気でおやじギャグをこよなく愛するチャーミングな人でした。班長のお陰で2班のメンバーは心地よく日本語教室に通っていました。また、日本語教室とはかかわりのない人たちとも交流を持たせてくれました。それもとても素敵な出会いとなっています。

先日、班長が毎週のように日本語教室の後に行っていた焼き鳥店で追悼集会を開催させて頂きました。たくさんの方が出席して下さい、貸し切りのお店がいっぱいになりました。明るいお酒が好きだった田淵班長らしい明るく賑やかな追悼会になった事、嬉しく思っています。きっと本人もこっそりと出席されていたと思います。

田淵班長には感謝しています。突然お別れの言葉もなくなってしまうことはすごく悲しいですが、これからも楽しいかった事を思い出しながらご冥福をお祈りします。

本当にありがとうございました。どうぞ安らかに。

合掌

新入生を募集中

学習者の皆さんも、お友達を誘ってご参加ください。

毎週金曜日のよる7時から8時30分に港区民センターの2階で行っています。

日程と場所はホームページで確認してください

